



# つながる

R7. 6. 6(金) No.6 立野 健一

## 中間テスト終了～大切なことはこれから～

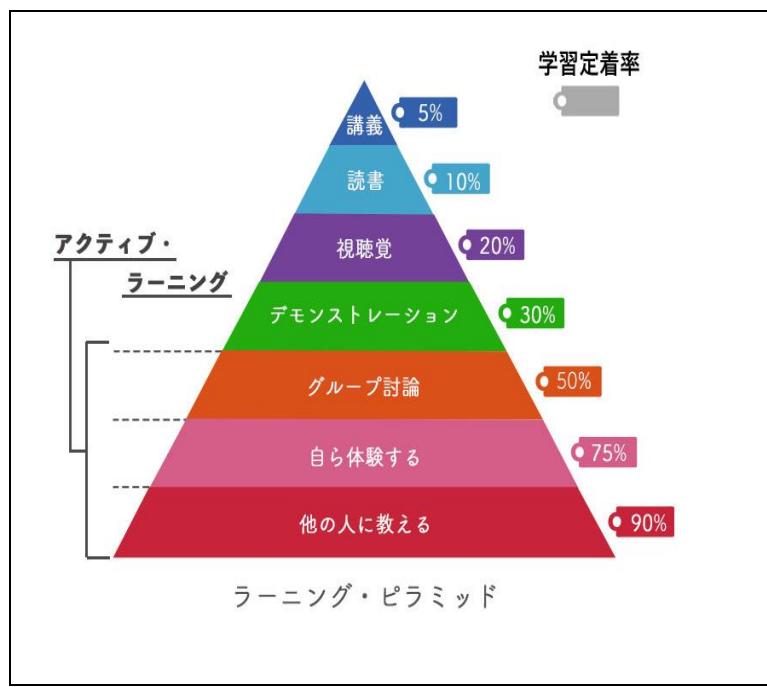
本日中間テストが終了しました。出来はいかがだったでしょうか。前号で書きましたが、ミッションは最後までやりきることができましたか？「もうちょっと勉強しておけばよかった・・・」と思っている生徒もおそらくいることでしょう。時すでに遅し・・・・ではあります。大切なことはこれからです。

テストは順位が出るし、通知表の成績にも関わってきますが、そもそも目的は、「テスト範囲の内容が理解できているか」を確かめるためのものです。極端に言うならば、99点だったとしても1点間違っている、理解できていない、ということですから、その1点分のやり直しを行い、次に同じような問題が出された時には「もう大丈夫！」と自信を持って解くことができるようにならなければならぬのです。だから、点数で一喜一憂するのは返却されたその瞬間だけ。そのあとは、しっかりとやり直しに取り組むことが重要です。自分でやり直しに取り組んでもわからなければ、先生方に質問してください。数学であれば、校長室に質問に来てください。決して、間違ったままにしないでくださいね。

さて、今までのテストできちんとやり直しをして「わかった！」と思ったけれど、実力テストではやはり同じところを間違ってしまった・・・・という人はいませんか？よく言われることですが、「頻繁に使う内容は記憶として残り、あまり使われない内容は忘れていく」という脳の仕組みがあるようです。一度わかったと思っても、その内容をその後にほとんど取り組まなければ、忘れていくものようです。定期的に復習に取り組む必要があるのは、このあたりに理由がありそうです。間違っていた問題に関しては特に自学ノートとかで繰り返し取り組む必要がありますね。

テスト勉強（ミッション）のこと、テストのやり直しのことを今まで書いてきました。でも、実は一番大切にしなければならないことは、日頃の授業です。

左の図はアメリカ国立訓練研究所から出された「ラーニングピラミッド」です。いろいろなところで紹介されているので、皆さんも見たことがあると思います。これを見ると、「聞くだけ（講義）」「読むだけ（読書）」「見るだけ（視聴覚）」では厳しいというのが一目瞭然ですね。「やってみる（デモンストレーション）」「友達と話してみる（グループ討議）」「みんなの前で実際にやってみる（自ら体験する）」「他の人に教える」ことがいかに学習の定着にとって有効かが分かりますね。だから授業では、隣の人と話したり、人前で発表したり、教え合ったりするのです。早速、明日からの授業を大切にしてください。一つ一つの活動には必ず意味がありますから。



## 校長室での学習会【5/28～6/4まで、のべ33名】

校長室に質問にきた第1号は、5月28日（水）の放課後に2年生の女子3名が来ました。約1時間、わからない問題を質問したり、理解が出来ていない所をミニ授業の形で行ったりしました。校長室には永机2つと椅子が6脚、そしてホワイトボードも持ち込んで行いました。その日の昼休みにその生徒たちがお願ひにきました。

（2年のある担任）「ほら、校長先生、職員室にいらっしゃるので、今お願ひしたら？呼んでくるね。」

（2年のある生徒）「先生、ダメです！今、校長先生、機嫌悪そうだから！」

（普通の表情で座っていたのに…。その後、各自が自己紹介をし、放課後の勉強会の約束をしたあと。）

（2年のある生徒）「恐そうだけど、意外と面白いね。」

そんなに私の普段の表情は、怒っているように見えるのでしょうか…。決してそんなことはありません。

5/30の放課後には1年生5名が来たみたいですが、丁度昼から出張でいなかったため、学習会が出来ませんでした。結局、上にのべたようにのべ33人の生徒が質問に来ました。私自身、凄く楽しい時間を過ごす事ができました。生徒の皆さん「わかりたい！」という思いに少しでも応えられたのであればよかったです。いかがだったでしょうか。次回は9月の前期期末テストですが、テストがあるなしに関わらず、日頃も遠慮なく質問に来てもらっていいですよ。校長室はそんなに敷居の高いところではありませんから。お待ちしています。

## 三中 重点目標（6・7月） 好きです三中

- お互いの良さを見つけよう（心の絆を深める）
- よりよい三中に向けて（生徒総会）
- 誇りをかけて決戦へ！（中体連）

「6月はきずなを深める月間」「生徒総会」「中体連大会」。この3つから、「好きです三中」を重点目標に掲げるとは、センスがありますね！体育大会が終わり、「行事を行事だけで終わらせない」という掛け声のもと、日常生活の充実に向けて職員も生徒も取り組んでいますが、少し気の緩みがあるかな…と思っていたところに、厳しく締め付けるのではなく、「好きです三中」を意識させて日常生活の質の向上を図ろうとする生徒会執行部の思いが大変うれしいです。

「お互いの良さを見つけよう（心の絆を深める）」とありますが、心の絆を深める前に、「絆を引き裂く」ことをわざと行っている人はいませんか？「周りの人の心や身体をわざと傷つける行為」は絶対に許さない、と私は始業式の日に話しました。もしそんな人がいるのなら、今すぐにやめましょう、そんなこと。誰一人幸せになりません、あなた自身も。

でも、もっと深刻なのは…「相手が傷ついていることに気づいていない」「相手が傷つくだろうと想像できない」「別に相手が傷つこうが自分には関係ない」と思って、何となくやっている人たちです。昨日の先生たち対象の講演会でも「無知・無自覚・無関心」が一番対応するのに難しいと話されていました。周りに流されて、いけないこととわかっていても同調してしまうこともあるかもしれません。

何かを発するときや行動するときに、「一呼吸おいて冷静になる」「相手の表情を見る」「自分がされたら…と考えてみる」ことができればいいのですが。少なくとも、ついついやってしまったことで相手を傷つけていたことに気づいたならば、しっかりと謝って、そこから引き返して同じ過ちを繰り返さなければいいと思います。ずっと嫌な思いを我慢している人がいたら、決して「好きです三中」なんて思えないですよね。6・7月の重点目標「好きです三中」は本当に具体的に取組を進めていきましょう。